

## 第10章 あなたのWebページは何点？

HTMLにはきちんとした規格が存在しますが、ブラウザがきちんと規格を満足していなかったり、使われないタグや機能も沢山あります。HTMLはイイカゲンに書いてもエラーをはいたりしないぞんざいなどところがありますので、普段はあまり厳密に書いたりしませんし、その必要性も感じないでしょう。しかし、文法に則った、きれいなHTMLを作成しておく、後で他の形式に変換するのが楽になります。ここで紹介するのは厳密にHTMLをチェックするサービスです。一度は自分の作成したWebページがどのぐらい文法に忠実であるか、チェックしておくとい良いでしょう。

### 10.1 HTML Validation

Webに関する様々な規格を定めたり、提示してくれたりしている重要なサイトとしてW3C[4]という組織があります。そこで提供されているHTMLのチェッカーです(図10.1)。

規格に則ったHTMLをこのチェッカに掛け、首尾よく合格すると「このbitmapを貼りなさい」という表示がされます。それを貼ったのが図10.2です。この場合はHTML 4.01という規格に則ったWebページである、という証になっています。

### 10.2 Another HTML-lint

先のサービスは全て英語で結果が表示されますが、文法チェックの結果が日本語でも表示できるものがあります(図10.3)。これは後で述べるPerlスクリプトによるCGIとして動作するようになっており、CGIが動作する環境であれば、自分の所にダウンロードして使用することも可能です。

### 10.3 100点でも-50点でも気にしない？

実は、Composerを用いて作ったHTMLファイルもこれらのチェッカに掛けるとエラーが出てきます<sup>1</sup>。試しにめぼしいURIを指定してこれらのチェッカに掛けてみると分かると思いますが、多くのサイトはそのデザインに関係なく、これらのテストには合格できないことが分かります。即ち、HTMLとしては「規格に則って記述されていない」ということになります。しかし、ブラウザの柔軟性に助けられ、殆どのサイトでは「ちゃんとしていないHTML」でも問題なく表示できるわけです。

一度、自分の作ったWebページをこれらのチェッカに掛けてみると面白いと思います。

---

<sup>1</sup>IBMのホームページビルダー Ver.6 が生成したWebページは一部の例外を除き、HTML4.01形式として及第点のWebページが生成できる。

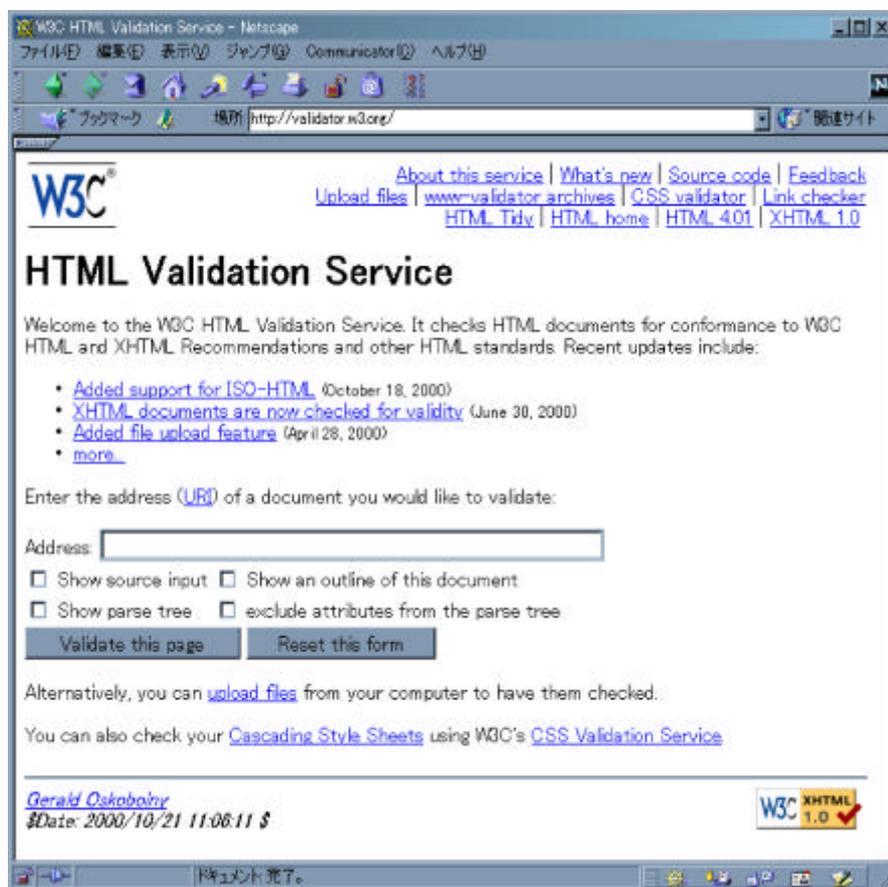


図 10.1: W3C HTML Validation Service



図 10.2: 合格のしるし



図 10.3: Another HTML-lint

## 練習問題

1. このようなサービスが存在する理由を考えよ。また、これらの文法チェッカに合格するような HTML ファイルを生成する意義はどこにあるのか？ これらのサイトのコメントを参照し、どのように主張しているかを調べよ。
2. 今まで自分が作ってきた Web ページを、HTML チェッカに掛けてみよ。エラーがあれば完璧になるまで修正してみよ。なお、この修正作業はテキストエディタで行う必要がある。